

現代日本語における「～がる」の統語的な特徴

韓 金柱

(東京外国語大学大学院博士後期課程)

要 旨

現代日本語における接尾辞「がる」は、形容詞あるいは希望を表す「～たい」に接続した「～がる」という形（「悔しがる」「食べたがる」等）で用いられる。本稿は、現代日本語における「～がる」の統語的な特徴について考察を行ったものである。

「～がる」は、大きく以下のような5つの形の文で用いられることが観察された。①対象となる人物の動作・動き、表情・態度などの外的な様子を表す表現を付帯状況として伴う文。②対象となる人物が発した言葉など外的な様子を表す表現を引用表現として伴う文。③原因を表す表現、条件を表す表現、逆接を表す表現を伴う文。④程度を表す副詞的表現、頻度を表す副詞的表現が共起する文。⑤対比を表す表現を伴う文。

ただし、これらの5つの形の文は相互排他的なものではなく、複数の特徴が同時に観察されることもある。

1. 研究の目的

本稿は、形容詞（形容動詞も含む）あるいは希望を表す「～たい」に接尾辞「がる」をつけた「～がる」という形（「悔しがる」「食べたがる」等）について、それが実際に、どのような形容詞に接続して用いられるのか、どのような形で用いられるのか、どのような統語的な文脈において用いられるか、その特徴を考察することを目的とする。

2. 研究の方法

ここでは、国立国語研究所「『現代日本語書き言葉均衡コーパス』モニター公開データ(2009年度版)」(以下、BCCWJと記す)および『朝日新聞オンライン記事データベース・聞蔵』(2007年1月～12月)から用例を収集し、考察を行った。なお、BCCWJについては、今回は特に検索対象のコーパスを限定せず、「書籍」「白書」「国会会議録」「Yahoo! 知恵袋」の全体から用例を収集した。BCCWJには、以下の表のような57,807のサンプルが収められている。

サブコーパス名	メディア	収録サンプル数
生産実態（出版）サブコーパス	「書籍」	4,459 サンプル
流通実態（図書館）サブコーパス	「書籍」	5,110 サンプル
非母集団（特定目的）サブコーパス	「書籍」（ベストセラー）	854 サンプル
	「白書」	1,500 サンプル
	「Yahoo! 知恵袋」	45,725 サンプル
	「国会会議録」	159 サンプル
計		57,807 サンプル

（『現代日本語書き言葉均衡コーパス』モニター公開データ（2009年度版）
書誌情報・サンプル情報・著者情報について）より）

3. 「～がる」の意味・用法

「～がる」は、話者が、対象となる人物が示している外的な様子¹を、総合的な知識²に基づいて、その人物の内面と関係付けてとらえ、それが、対象となる人物の内面³の表れであると描写することを表す。具体的には「XがAがる」という表現について、以下の3つの用法を観察することができる（韓 2010, 2011）。

用法 1	話者が、対象となる人物 X が示している外的な様子を、総合的な知識に基づいて、その人物の内面と関係付け、それが、対象となる人物の「Aである」という内面の表出であると描写する。（以下の例（1）のような場合）
	話者が、対象となる人物 X の「内面」に隠されたもう一人の人物 X' を見ており、その X' の示している外的な様子を総合的な知識に基づいて X の内面と関係付け、やはり X の「Aである」という内面がそこに表れているととらえている。（例（2）のような場合）
用法 2	話者が、対象となる人物 X が示している外的な様子を、総合的な知識に基づいて、その人物の内面と関係付け、それが、対象となる人物の「Aであるふりをしよう」という目論見の表れであると描写する。（例（3）のような場合）

- (1) 「おーっ」というように、獣めいた叫びをあげると共に、急に、鼻と口から血を吹き出して、バツリ倒れ込んだ。「まあ、どうしたの？」悲痛な声をあげて、日美子は、扶代子を抱き起こそうとした。しかし、苦しがる扶代子は、軀をピクンピクンと震わせ、地面をころげた。（『天城高原殺人迷路』）

¹ 対象となる人物が発した言葉、示した動作・動き、表情・態度などのこと。

² 話者が、対象となる人物の外的な様子を、その内面と関係付けてとらえる際に用いる知識のこと。

人がある感情を抱いている際に見える表情や態度、行動などに関する一般的な知識、および話者の頭の中に蓄積されている対象となる人物に関する知識（その人物の普段のふるまいなど）。

³ 対象となる人物の心理状態のこと。

(2) 心の中で彼の容姿を羨ましがっていることを顔に出さないように心がけながら、リヴァンは青年と会話を続けた。

(<http://mainet.ath.cx/bbs/sst/sst.php?act=dump&cate=HxH&all=2035&n=2>)

(3) 加奈子が身元確認して表面上は夫の死を悲しがっていたが刑事は加奈子が涙も流さずに薄ら笑いすら浮かべていた事に気づき加奈子を疑うことに。

(<http://430115.blog110.fc2.com/blog-entry-430.html>)

「～がる」は、対象となる人物がある特定の外的な様子を繰り返し示しているか、または普通とは違う外的な様子を見せているという文脈において、話者がその外的な様子を対象となる人物の内面と関係付けて述べようとする際に用いられる。

ここで特定の外的な様子を繰り返し示しているというのは、例えば、ある人物が同じ言葉は何回も発したり、同じ動作・動き、表情・態度を何回も示しているなどの場合である。

また、ここで「普通」とは違う外的な様子を見せているというのは、対象となる人物が「普段のその人」、「周りの人」、あるいは「世間一般の人」とは違う外的な様子を見せていることを指す。「普段のその人」とは違う外的な様子を見せているというのは、例えば、いつも明るく、活発な人物が、その日に限って暗い顔をしているなどの場合である。また、「周りの人」とは違う様子を見せているというのは、例えば、皆は楽しく話したり、笑ったりしているが、一人だけが暗い顔をしているなどの場合である。また、「世間一般の人」とは違う様子を見せているというのは、例えば、一般的に子供というのは普通遊園地などに行くと、乗り物に乗ったりして楽しむものだが、ある子供は大人の後ろに隠れたり、乗り物に近寄らなかつたりしているなどの場合である。

4. 接尾辞「がる」が接続する形容詞および「～たい」

接尾辞「がる」は、前述のデータを見ると、実際に以下のような形容詞に接続して用いられていることが観察された。ここで観察された87語は、そのうち感情形容詞が60語、感覚形容詞が7語、属性形容詞が20語である。

ここでいう感情形容詞とは、「私はありがたい」、「私は嫌だ」のように、「私は——。」の形で第一人称名詞句を主題として、<感情表出>文を作ることができるもの、感覚形容詞とは、「私はお腹が痛い」のように、「私は[身体部分]が——。」の形、あるいは「太陽の光が目目に眩しい」のように、「[身体部分]に——。」の形で、話し手の身体部分を経験者格として、構文中に言語化し得るものである。また、属性形容詞とは、「私は——。」の形で、<感情表出>文を作ることができないものである。つまり、「*私は新しい」などは不自然であり、「新しい」は属性形容詞と考えられる。

以下、各形容詞は50音順に並べ、用例数上位20位までの形容詞に_____を付して示している。なお、検索にあたっては、「がる」が取りうる形式的変異をカバーできるよう、「がら」「がり」「がる」「がれ」「がろ」「がっ」の6つの形によって検索を行った。

a. 感情形容詞 (60 語) (第一人称名詞句を主題として、<感情表出>文を作ることが可能)

暑い	<u>ありがたい</u>	訝しい	嫌な	うざい	薄気味悪い
うっとしい	疎ましい	羨ましい	うるさい	<u>嬉しい</u>	おかしい
惜しい	恐ろしい	おっかない	億劫な	<u>面白い</u>	悲しい
かわいそうな	気の毒な	気味悪い	きもい	気持ち良い	気持ち悪い
口惜しい	<u>悔しい</u>	苦しい	恋しい	小気味悪い	心細い
怖い	さびしい	さみしい	残念な	じれったい	済まない
せつない	たのもし	辛 (つら) い	照れ臭い	情けない	懐かしい
にくらしい	歯がゆい	恥ずかしい	ひもじい	不安な	不快な
不気味な	<u>不思議な</u>	不憫な	<u>欲しい</u>	無念な	迷惑な
面倒な	面倒くさい	申しわけない	もどかしい	物珍しい	愉快な

b. 感覚形容詞 (7 語) (話し手の身体部分を経験者格として、構文中に言語化し得る)

熱い	<u>痛い</u>	痒い	<u>煙たい</u>	くすぐったい	寒い	眩しい
----	-----------	----	------------	--------	----	-----

c. 属性形容詞 (20 語) (第一人称名詞句を主題として、<感情表出>文を作ることが不可能)

新しい	あぶない	危うい	あやしい	いきな	忙しい	口うるさい	おいしい
<u>可愛い</u>	汚い	怪訝な	深刻な	<u>重宝な</u>	<u>強い</u>	得意な	悲壮な
不審な	<u>珍しい</u>	めでたい	厄介な				

西尾 (1972), 名柄 (1988), 富田 (1997) では, 属性形容詞の中では, 「新しい」「おめでたい」「汚い」「重宝な」「強い」「厄介な」などは, 「がる」がつく場合があるということが指摘されている。しかし, 「がる」が接続し得るこのような属性形容詞にはどのような特徴があるのか, その詳細については述べられていない。

西尾 (1972) は, 「おめでたい」「汚い」「重宝な」「厄介な」は, 「大きい」「白い」「遠い」のような語に比べると, 主観的な色合いのつよい意味を持っていると述べている。ただし, 「主観的な色合いのつよい」というのはどのようなことであるのか, 詳しくは述べていない。また, 同じく「がる」が接続し得る属性形容詞である「新しい」「強い」については, どのような特徴があるのかについて言及していない。

森田 (1988) は, 属性形容詞の場合について, 接した者が不快を感じるような属性を表す形容詞 (例えば, 「難しい」「危ない」), またはプラス評価を表す形容詞 (例えば, 「強い」「新しい」) は「がる」がつきやすく, 一方, 接した者が快さを感じるような属性を表す形容詞 (例えば, 「やさしい」「安全な」), またはマイナスの評価を表す形容詞 (例えば, 「弱い」「古い」) は「がる」がつきにくいと記述している。しかし, ここで「快/不快」と「プラス評価/マイナス評価」との間にどのような関連があるのかが分かりにくい。例えば, 「不快」を感じるような属性を表す形容詞として挙げている「難しい」「危ない」の場合, マイナス評価を表すものとしてとらえることも可能ではないと思われる。また, 「がる」がつきやすいとされる形容詞全体に, どのような共通の特徴が見られるのかという視点からの考察は行われていない。

観察される属性形容詞を見てみると, これらは人がある物に接触した場合またはある事柄に遭遇した場合, その場で新たに生じる心理的感覚を表すことができるものであり, 単

に属性を表すと考えられる「赤い」「親切的な」などとは異なることがわかる。例えば、デパートで買い物をしている場面で話者が「このデザイン、新しい！」と発した場合、必ずしもそのデザインが、初めて市場に出たものであり、「新しい」という属性を持っているとは限らない。この場合、話者がそのデザインに初めて遭遇し、「新しい」という心理的な感覚が生じたことを表していると考えられる。

以上、観察される形容詞全体を見てみると、接尾辞「がる」が接続することができる形容詞には、感情・感覚形容詞であれ属性形容詞であれ、いずれも人がある物に接触した場合またはある事柄に遭遇した場合、その場で新たに生じる感情・感覚を表すことができるという共通の特徴があることがわかる。

接尾辞「がる」が上記のような形容詞に接続して用いられる際、否定形（「がらない」「がらず」）、基本形（「がる」）、タ形（「がった」）、条件形（「がれば」「がったら」）、連用形（「がり」「がって」「がったり」）の活用形で用いられることが観察された。ただし、命令形（「がれ」）、意志形（「がろう」）の活用形で用いられる例は見られなかった。

また、接尾辞「がる」が上記のような形容詞に接続して用いられる際、受動表現（「がられる」）、使役表現（「がらせる」）、可能表現（「がれる」）のようなヴォイスの表現で用いられることも観察された。

ただし、接尾辞「がる」が属性形容詞に接続して用いられる際は、感情形容詞、感覚形容詞の場合とは異なり、使役表現（「がらせる」）の形で用いられる例は見られなかった。また、感覚形容詞に接続して用いられる際には、可能表現（「がれる」）の形で用いられる例は見られなかった。

また、接尾辞「がる」は、「～たい」（動詞＋たい）という形に接続して用いられる。「たい」の前にくる動詞としては「する、やる、話す、言う、語る、見る、聞く、行く、出る、帰る、乗る、会う、食べる、認める、知る、目立つ」が多く観察された。

5. 「～がる」が用いられる統語的な文脈

「～がる」に関する先行研究には、「～がる」が用いられる統語的な文脈について考察を行ったものは見られない。ここでは、「～がる」は実際に以下の1～9のような統語的な文脈で用いられていることが観察された。以下、「～がる」が用いられる文に特徴的に共起すると思われる表現に_____を付して示す。また、1～9の枠内の下段にそれらの表現の文法的・意味的特徴を[]に入れて示した。

5.1. 動詞のて形、「動詞＋ながら」の形、動詞の連用終止形を伴う文

- | |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. [_____て/_____ながら/連用終止形], {～がる/～がった/～がっている/～がっていた}。
[付帯状況を表す表現（動作・動き、表情・態度など外的な様子を表す表現）] |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------|

まず、「～がる」は、対象となる人物の動作・動き、表情・態度などの外的な様子を表す表現を付帯状況として伴う文で用いられる。例えば、以下の(4)の高見盛が「花道の

壁をたたいて悔しがった」, (5) の母が「顔をしかめて苦しがる」, (6) の矢次が「帽子を押さえつけながら悔しがった」, (7) の話し手が「朝夕眺め懐かしがっている」のようなものである。

- (4) 琴奨菊に敗れた板柳町出身の高見盛は、花道の壁をたたいて悔しがった。「強いよ、勝てない」とうつむいた。(朝日新聞, 2007年1月22日)
- (5) 93歳の母が入院した。多臓器不全といわれた。痰をとってもらうときは顔をしかめて苦しがる。見守る方もせつない。(朝日新聞, 2007年2月7日)
- (6) 試合後、2人はあふれ出る涙をぬぐおうとしなかった。矢次は右手で帽子を押さえつけながら悔しがった。大下は「支えてあげられなくてごめんと矢次に言いたい」と声を震わせた。(朝日新聞, 2007年7月26日)
- (7) 数年前、まだ幼稚園児だった孫の一隆が、我が家でそれと同じような仕草をしたのが強く印象に残っている。そして、その場面を写した写真を私の書斎に飾って、朝夕眺め懐かしがっている。(『雨が降ったら傘をどうぞ』)

上記の(4)～(7)を見てみると「～て」という形, 「～ながら」という形, および連用終止形で表されているのは、いずれも対象となる人物の動作・動き, 表情・態度となっている。例えば, (4)の「花道の壁をたたいて」は対象となる人物「高見盛」が示している外的な動作であり, (5)の「顔をしかめて」は対象となる人物「母」が示している外的な表情であり, (6)の「帽子を押さえつけながら」は対象となる人物「矢次」が示している動作, (7)の「朝夕眺め」は対象となる人物「私」が示している動き, 態度である。「～がる」は、このように、対象となる人物の外的な様子を表す表現を、付帯状況を表すものとして伴った形で用いられる。これは、接尾辞「がる」が、話者が、対象となる人物の外的な様子を見て、それがその人物の内面の表れであると描写するものであるという点と一致するものである。

5.2. 引用の形を伴う文

- | |
|------------------------------------------------------------------------------|
| 2. [_____ と] {～がる / ～がった / ～がっている / ～がっていた}。
[引用表現 (発した言葉など外的な様子を表す表現)] |
|------------------------------------------------------------------------------|

また、「～がる」は、対象となる人物が発した言葉を引用表現として伴う文で用いられる。例えば、以下の(8)の菜穂が「『放射線かけに地下へ行ってるのよ。それも今日二度めなんですって。胸の断層写真を撮った結果ですって』と不安がる」, (9)の新聞の政治記者たちが「『みんな知っている話だったのに、立花氏にやられた』と、悔しがった」, (10)の江戸っ子と呼ばれる町人たちが「宵越しの金は持たないと粋がって」のようなものである。

- (8) 菜穂が飛び出してきて、「放射線かけに地下へ行ってるのよ。それも今日二度めなんですって。胸の断層写真を撮った結果ですって」と不安がる。(『功、大好き』)
- (9) 新聞の政治記者たちは「みんな知っている話だったのに、立花氏にやられた」と、悔しがったといわれている。(『新聞記者という仕事』)
- (10) 江戸っ子と呼ばれる町人たちは、「宵越しの金は持たないと粋がって、その日暮らしに意気地を張って生きていたのである。(『きもの花伝』)

上記の(8)～(10)を見てみると「～と」という形で表されているのは、いずれも対象となる人物が発した言葉が引用の形で示されている。例えば(8)は対象となる人物「菜穂」が発した言葉であり、(9)は対象となる人物「新聞の政治記者たち」が発した言葉であり、(10)は対象となる人物「江戸っ子と呼ばれる町人たち」が発した言葉である。「～がる」がこのように対象となる人物の発した言葉を引用表現という形で伴って用いられるのも、接尾辞「がる」が、話者が、対象となる人物の外的な様子をとらえ、描写するものであるという点と一致する。

5.3. 「文+接続助詞」の形を伴う文

「～がる」は原因を表す表現、条件を表す表現、逆接を表す表現を伴う形で用いられる。

- | |
|-------------------------------------------------------------------------------|
| <p>3. 「<u>_____から/ので/ため</u>」{～がる/～がった/～がっている/～がっていた}。
[接続表現(原因を表す表現)]</p> |
|-------------------------------------------------------------------------------|

まず、「～がる」は、「～から/ので/ため」のように原因を表す接続表現を伴う文で用いられることが観察された。例えば、(11)(12)のようなものである。

- (11) 恐ろしい容貌に加え、声やしぐさが奇異であったから、彼女はその男を怖がった。
(『解剖学はおもしろい』)
- (12) どういうわけか、殿のおいいつけとのことで、宿直の男たちが、やたらに威張って見廻っていますので、みな、うっとうしがっていますの。(『霧ふかき宇治の恋』)

「～がる」がこのように原因を表す表現を伴う文で用いられるのは、接尾辞「がる」が、対象となる人物が「普段のその人」または「周りの人」とは違う外的な様子を示しているという文脈で用いられるという点で一致する。人は何らか原因・理由がある際に、普段のその人または周りの人とは違う外的な様子を見せることが可能性として考えられるからである。

- | |
|--------------------------------------------------------------------------------|
| <p>4. 「<u>_____たら/と/ば/ても</u>」{～がる/～がった/～がっている/～がっていた}。
[接続表現(条件を表す表現)]</p> |
|--------------------------------------------------------------------------------|

次に、「～がる」は、「～たら/と/ば/ても」のような条件を表す表現を伴う文で用いられることも観察された。例えば、(13)の「鞍馬天狗と聞いたら懐しがる」、(14)の「足をベッドからおろすと痛がる」のようなものである。

(13) 大佛次郎という名前が読めない人でも、鞍馬天狗と聞いたら懐しがるだろう。

(『勇氣凛々こんな人生』)

(14) 元気に起きていたが起床介助で足をベッドからおろすと痛がるので、ベッド上に食事を配膳。なかなか食べないので食事介助を行う。

(『ホームヘルパーのための訪問介護の役割と展開法』)

「～がる」がこのように条件を表す表現を伴う文で用いられるのも、接尾辞「がる」は、対象となる人物が「普段のその人」または「周りの人」とは違う外的な様子を示しているという文脈で用いられることと一致する。人はある条件のもとでまたはある条件が設定された際に、普段のその人または周りの人とは異なる様子を見せることが可能性として考えられるからである。

5. [のに/くせに], {～がる/～がった/～がっている/～がっていた}。
[接続表現 (逆接を表す表現)]

また、「～がる」は、「～が/のに/くせに」のような逆接を表す表現を伴う文で用いられることも観察された。例えば、(15)の「大して親しくもないのに、くやしがる」、(16)の「写真を見たくせに、アフロージュの顔を見たくがって」のようなものである。

(15) これなら使ってもいいよ～って言ったらどうですか？もし別のバッグがいいと指定してきたら、これは凄く大事だから貸せない、と断ればいいと思います。1つも貸せないとされると大して親しくもないのに、くやしがるタイプの人みたいですから... 貴女も大変ですが周りのひとは判ってくれると思いますよ。

(『Yahoo! 知恵袋』)

(16) この時の様子を見ていたダーディーは、あとで、「私にもああやって姑に背を向けて、恥ずかしがっていた時代があったわー」と懐かしみ、いつもは、アフロージュとケンカばかりしている妹のカトウナは、「写真を見たくせに、何度もアフロージュの顔を見たくがって。…」と怒っていた。(『ムスリムの女たちのインド』)

「～がる」がこのように逆接を表す表現を伴う文で用いられるのは、接尾辞「がる」が、対象となる人物が「世間一般の人」とは違う外的な様子を示しているという文脈で用いられるということと一致するものである。(15)は「～のに、～がる」の逆接を表す形によって、一般的に大して親しくない相手から一つも貸せないとされても、悔しいと思わないはずだが、対象となる人物は世間一般の人とは違う様子を見せていることを表し、(16)は「～くせに、～がって」の逆接を表す形によって、一般的に写真を見たら、何度も顔を見たいと思わないはずだが、対象となる人物は一般の人とは違う様子を見せていることを表すものである。

5.4. 副詞的表現が共起する文

「～がる」は程度を表す副詞的な表現，頻度を表す副詞的な表現が共起する形で用いられる。

- | |
|-----------------------------------------------------------------------------|
| 6. <u>「とても／極端に／一途に／～ほどに」</u> {～がる／～がった／～がっている／～がっていた}。
[副詞的表現 (程度を表す表現)] |
|-----------------------------------------------------------------------------|

まず、「～がる」は、「とても／極端に／一途に／～ほどに」のような程度を表す副詞的表現が共起する文で用いられることが観察される。例えば，以下の(17)～(20)のようなものである。

- (17) ネパールのポカラから見えるヒマラヤ山脈の一つに、マチャプチャレという美しい山がある。その山を見るためにカトマンズからポカラまで行ったのに、天気が悪くて見れずに帰って来てしまったのを、とても残念がっていた。
(『大麻所持逮捕の全記録』)
- (18) 緊張が強い子どもや、恐怖心の強い子どもは、歯磨き・耳掃除などをされるのを、極端に嫌がることがあります。(『お母さんの抱っこでよい子に育つ』)
- (19) 増築にあたって、改めて上段の間をつくるほどに、君は一途に往時の生活様式をなつかしがっていたにちがいないのだ。(『友を偲ぶ』)
- (20) 両親にとっては、目に入れても痛くないほどにかわいがっていた大事な子である。
(『角筆のみちびく世界』)

「～がる」がこのように、程度を表す副詞的表現が共起する文で用いられるのは、接尾辞「がる」は、対象となる人物が「普段のその人」「周りの人」あるいは「世間一般の人」とは違う外的な様子を示しているという文脈で用いられることと一致する。人が普段のその人、周りの人あるいは世間一般の人とは異なる外的な様子を見せている際に、その外的な様子がどの程度のものなのかについて述べる事が想定されるからである。

- | |
|--------------------------------------------------------------------------|
| 7. <u>「しきりに／～たびに／珍しく」</u> {～がる／～がった／～がっている／～がっていた}。
[副詞的表現 (頻度を表す表現)] |
|--------------------------------------------------------------------------|

また、「～がる」は「しきりに／～たびに／珍しく」のような頻度を表す副詞的表現が共起する文で用いられることが観察された。

- (21) 卒業生はかつての担任の先生を、しきりに懐かしがりました。高校生活のこと、将来の夢、様々な話をしながら、たくましさや優しさがしっかり育っているのを感じました。(朝日新聞、2007年4月3日)
- (22) 本丸御殿から千姫が味気ない顔で戻ってくるたびに、青木頼母や五味平左衛門たちはもどかしがった。(『千姫絵姿』)

- (23) 落合監督が本気で悔しがったり、愚痴を言ったことってありますか？日本シリーズの第3戦で岡本が打ち込まれた時に投手交代を躊躇したことは、珍しく悔しがっていましたね。(Yahoo! 知恵袋)

「～がる」はこのように、頻度が大きいまたは頻度が小さいことを表す副詞的表現が共起する文で用いられる。頻度が大きいことを表す副詞的表現が共起する文で用いられるのは、接尾辞「がる」が、対象となる人物が特定の外的な様子を繰り返し示しているという文脈で用いられることと一致し、頻度が小さいことを表す副詞的表現が共起する文で用いられるのは、接尾辞「がる」が、対象となる人物が「普段のその人」とは違う外的な様子を示しているという文脈で用いられることと一致する。(21)は頻度が大きいことを表す表現「しきりに」によって、卒業生が特定の外的な様子を繰り返し示していることを表すものであり、(22)も頻度が大きいことを表す表現「～たびに」によって、青木頼母や五味平左衛門たちが特定の外的な様子を繰り返し見せていることを表すものである。一方、(23)は頻度が小さいことを表す表現「珍しく」によって、落合監督が普段とは異なる外的な様子を見せていることを表すものである。

5.5. 対比を表す表現を伴う文

- | |
|---------------------------------------------------------------------|
| 8. 「対象となる人物」は/が <u>「最近/次第に」</u> {～がる <u>「ようになる」</u> 。
[対比を表す表現] |
|---------------------------------------------------------------------|

まず、「～がる」は、「最近/次第に～がるようになる」のように、「今」の対象となる人物の外的な様子をその人物の「以前」の外的な様子に対比する文で用いられることも観察された。例えば、(24)の「最近億劫がるようになった」, (25)の「次第にうるさがられるようになります」のようなものである。

- (24) 二、三年前までは夜明け前から田んぼや畑で一仕事していた働き者の両親が、最近はなにをするにも億劫がるようになった。二人とも七十歳を過ぎた。(『リビング』)
- (25) 世の中には大変お節介好きの人がいて、なんでも他人のことに干渉し、口出ししたがる人がいますが、最初は有難がられたとしても、次第にうるさがられるようになります。(『人を思いやる力』)

このように「今」を「以前」に対比する文で用いられるのも、接尾辞「がる」が、対象となる人物が「普段のその人」とは違う外的な様子を示しているという文脈で用いられるということと一致する。(24)は最近(「今」)の両親は二、三年まで(「以前」)とは違う外的な様子を示すことを表し、(25)は次第に最初とは違う外的な様子を示すことを表すものである。

- | |
|-----------------------------------------------------------------------------|
| 9. <u>「最初/昔/以前」</u> {～がる/～がった/～がっている/～がっていた <u>「が/のに」</u> ……。
[対比を表す表現] |
|-----------------------------------------------------------------------------|

次に、「～がる」は、「最初/昔/以前～がっていたが、…」のように、「以前」の対象となる人物の外的な様子をその人物の「今」の外的な様子に対比する文で用いられることも観察された。例えば、以下の(26)(27)のようなものである。

(26) みんな最初はマイクを持つのを嫌がっていたが、握ったら離さなかったし、何よりも自己の意思を表明することに楽しさを覚えたという。

(『デモクラシー・リフレクション』)

(27) ついに、一切練習することを禁じるという命令が出てしまった。これには少なからず動揺し心が痛んだ。思えば、以前に楽器をやっていたときは練習のできない状況というものを天からの贈り物のよう^にありがたがっていたのに、このときは悲しんでいるのだから不思議なものだ。(『音楽のある知的生活』)

このように「以前」を「今」に対比する文で用いられるのも接尾辞「がる」が、対象となる人物が「普段のその人」とは違う外的な様子を示しているという文脈で用いられるということと一致する。ただし、ここでの普段のその人とは今のその人を指すことになる。(26)はみんな最初(「以前」)見せていた外的な様子が「今」とは違う様子であったことを表すものであり、(27)は以前の私が示している外的な様子はこのとき(「今」)とは違う様子であったことを表すものである。

6. まとめ

本稿では、形容詞(形容動詞も含む)あるいは「～たい」に接尾辞「がる」をつけた「～がる」という形(「悔しがる」「食べたがる」等)について、国立国語研究所『『現代日本語書き言葉均衡コーパス』モニター公開データ(2009年度版)』(「書籍」「白書」「国会会議録」「Yahoo!知恵袋」)と『朝日新聞オンライン記事データベース・聞蔵』(2007年1月～12月)から用例を収集し、それが実際に、どのような形容詞に接続して用いられるのか、どのような形で用いられるのか、どのような統語的な文脈において用いられるか、その特徴を考察した。

まず、接尾辞「がる」は、人がある物に接触した場合またはある事柄に遭遇した際、その場で生じる感情・感覚を表す形容詞に接続して用いられる。

次に、接尾辞「がる」が形容詞に接続して用いられる際、命令形(「がれ」)、意志形(「がろう」)の活用形で用いられる用例は見られなかった。なお、接尾辞「がる」が属性形容詞に接続して用いられる際は、感情形容詞、感覚形容詞の場合とは異なり、使役表現(「がらせる」)の形で用いられる用例は見られなかった。また、接尾辞「がる」が感覚形容詞に接続して用いられる際には、可能表現(「がれる」)の形で用いられる用例は見られなかった。

また、「～がる」は以下のような形の文で用いられることが観察された。

1. 対象となる人物の動作・動き、表情・態度などの外的な様子を表す表現を付帯状況として伴う文。
2. 対象となる人物が発した言葉など外的な様子を表す表現を引用表現として伴う文。
3. 「～から/～ので/～ため」のような原因を表す表現, 「～と/～たら/～ば」のような条件を表す表現, 「～のに/～くせに」のような逆接を表す接続表現を伴う文。
4. 「とても/極端に/一途に/ほどに」のような程度を表す副詞的表現, 「しきりに/～たびに/珍しく」のような頻度を表す副詞的表現が共起する文。
5. 「最近/次第に～がるようになる」のように「今」の対象となる人物の外的な様子をその人物の「以前」の外的な様子に対比する文, 「最初/昔/以前～がっていたが, …」のように「以前」の対象となる人物の外的な様子をその人物の「今」の外的な様子に対比する文。

1.2. は、接尾辞「がる」が、話者が、対象となる人物の外的な様子を見て、それがその人物の内面の表れであると描写するものであるという点と一致する。3.4.5. は、接尾辞「がる」は、対象となる人物が特定の外的な様子を繰り返して示している、または「普通」（「普段のその人」「周りの人」あるいは「世間一般の人」）とは違う外的な様子を示しているという文脈で用いられるということと一致する。

ただし、以上の5つの形の文は相互排他的なものではなく、複数の特徴が同時に観察されることもある。例えば、「彼女はその話を聞くと、涙を流して悲しがった」のように、3. の条件を表す表現と1. の外的な様子を表す表現が同時に現れる場合、「彼女は試合に負けたので、とても悔しがった」のように、3. の原因を表す表現と4. の程度を表す副詞が同時に現れる場合などもある。

参考文献

- 韓金柱 (2008) 「感情形容詞と『がる』との接続」『東京外国語大学 日本語研究教育年報』12 東京外語大学日本語課程 pp. 47-63
- 韓金柱 (2010) 「接尾辞『がる』の意味・用法一様態の『そうだ』と比較して一」『東京外国語大学大学院博士後期課程論叢 言語・地域文化研究』第16号 東京外国語大学大学院 pp. 271-284
- 韓金柱 (2011) 「感情形容詞に対応する『～む』動詞について一『～がる』との比較を視野に入れて一」『東京外国語大学大学院 博士後期課程論叢言語・地域文化研究』第17号 東京外国語大学大学院 pp. 63-76
- 日本語記述文法研究会編 (2008) 『現代日本語文法 6 第11部複文』くろしお出版
- 日本語記述文法研究会編 (2009) 『現代日本語文法 2 第3部格と構文 第4部ヴォイス』くろしお出版
- 富田隆行 (1997) 『続・基礎表現 50 とその教え方』凡人社
- 名柄迪 (1988) 『外国人のための日本語例文・問題シリーズ 5 形容詞』荒竹出版
- 西尾寅弥 (1972) 『形容詞の意味・用法の記述的研究』秀英出版
- 森田富美子 (1988) 「接尾辞『～がる』について」『東海大学紀要 8』東海大学留学生教育センター pp. 1-15